

令和3年度 事業報告

1 事業期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

2 事業の概要

令和元年、新型コロナウイルスが確認されて以来、世界経済は急速に悪化しました。多くの国で渡航制限がおこなわれ、国内においても人や物の流れが制限されました。こうした中、コロナワクチンが開発され、経済はコロナ禍ではありますが、完全な回復とはいかない中、徐々に回復の兆しが見えてきました。ウイルス感染に対しては、人的被害を最小化していくためにもコロナウイルスとの『戦い』ではなく『共生』する考えが、より一層重要になってきました。

このような状況の中、当シルバー人材センターは、令和3年10月に設立40周年を迎えました。昭和56年（1981年）春日部市高齢者事業団として、会員数187人、売上高387万円の規模からスタートし、昭和62年（1987年）社団法人春日部市シルバー人材センターとして法人化をはかり、平成17年

（2005年）庄和町シルバー人材センターと合併、平成24年（2012年）公益社団法人への移行を経て、令和4年3月31日現在、会員数は1,223人、売上高約6億5,000万円に成長できました。令和3年度コロナ禍ではありますが、感染防止に取り組み事業の拡大に向け取り組んだ結果約820万円の利益を確保することができました。

今後、シルバー人材センターは、企業の雇用延長で退職年齢が上がり、入会時の会員の年齢も高くなると共に、会員としての在職年数も短くなる傾向が顕著になってきている中、いかに会員数を確保し、魅力あるシルバー人材センターとしていくために、会議、広報、説明会等々を行いながら、さらに職員一同努力してまいります。

3 基本計画

- (1) 運営基盤の強化
- (2) 会員増強
- (3) 就業率の向上
- (4) 安全就業への取り組み
- (5) 研修会・講習会の開催
- (6) 社会貢献の推進と普及啓発活動
- (7) シルバー学校の継続

4 基本計画に対する取り組み

- (1) 運営基盤の強化
 - ① 事務局業務課では、班編成をして計算チーム・業務対応チーム・派遣対応チーム・公共対応チームで構成され3年目を迎えました。チームで仕事の共有が図られ、担当者が不在でも仕事が滞りなく対応が可能となりました。

- ② 公園トイレ清掃業務は、チェブクローのキャラクターステッカーが付いた、清掃会員を乗せた車が定期的に清掃巡回をするため市民に周知されてきました。3Kといわれる仕事のイメージを払拭するため、清掃会員がお揃いのピンクの制服を着用してイメージアップを図り、市民に好評を得ました。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入会説明会での飛沫防止の衝立や自動消毒噴霧器等の設置をし、感染防止に努めました。また、会員の方には会員報にてコロナ感染防止策の継続をお願いしました。
なお、会員や同居の家族でコロナ感染者が発生した際には、職員間で情報の共有を行い、感染拡大がないよう就業先との連携を密にし、就業活動に空白が生じないよう対応しました。

(2) 会員増強

- ① 入会説明会参加者に「働く会員の素顔」を載せた資料を配布し、シルバーの仕事を理解して頂けるよう努め、会員増加に繋げました。
- ② 入会説明会参加者に「襖・障子・網戸張り」「刃物研ぎ」「リサイクル自転車」等の就業体験を実施し参加型の臨場感ある説明会を実施しました。
- ③ 新たに女性会員拡大を目的とした講習会「手ごとサロン」を年2回開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、年1回10月に開催しました。
- ④ 入会説明会を毎月開催しました。
また、センターホームページから入会説明会の予約が可能であることを周知し、入会受付の拡大に努めました。
- ⑤ 市役所ロビー・ハローワークでの入会相談会を継続して実施しました。
特にハローワークは相談者のうち、月2名程、入会説明会に参加した事例がありました。

(3) 就業率の向上

- ① 就業紹介をする時使用するために、除草作業「見える化」の映像撮影を実施し、動画を取り入れた内容にしました。今後は、コロナ感染で中止となった「シルバー学校」での植木剪定や襖張りの撮影を予定することとしました。
- ② 派遣登録人数拡大として、新規就業の依頼があった企業等には、派遣の形態で契約を行いました。
なお、請負事業で指揮命令のある発注先には派遣事業に切り替えるお願いをし派遣契約に切り替えました。
- ③ 1か所の就業に限らず複数就業が可能であるダブルワークの周知について、入会説明会・ワークシェアリング説明会等にて会員へ説明を実施しました。
- ④ コロナ禍においても就業先・新規企業を訪問し就業継続や拡大に努めました。
- ⑤ 職種別の就業条件や就業環境の整備として、チラシ・ポスター・広報紙にて熱中症・コロナ感染防止等の注意喚起を行い、快適に仕事ができるよう熱中症対策スプレー、夏グッズなどの提供をいたしました。
- ⑥ 40周年記念事業の企画立案を行い、会員・発注先・関係者等に挨拶状と記念品をお配りし、今後のご支援をお願いしました。
- ⑦ 令和4年4月1日からの道路交通法施行規則の改正に伴い、飲酒運転根絶の取組強化が行われ、酒気帯びの有無についての目視の確認と令和4年10月1日からのアルコール検知器を用いた確認に対応すべく、当センターの車両使用管理規程の見直しを行いました。

(4) 安全就業への取り組み

- ① 会員の安全就業が、当センターの最も重要な課題であることを役員一同、統一した認識を持ち、「安心・安全の日」の巡回で多くの現場を訪問しました。危険を感じた現場や、改善すべき就業箇所は巡回指導記録簿を通じて、安全推進委員会へ提言し改善に努めました。
- ② 就業時研修会は、実際に発生した事故やトラブルを例題とした内容の研修会を開催して、出席者に共感を持ち自身に置き換え、危険予知トレーニングを高める研修会を実施しました。
- ③ カルマーを使用することで飛び石事故を防ぐ効果は実証済みですが、作業効率や装着時の負担、購入価格によって、チップソー及び刈り払いコードを使用する現場も見受けられました。今後も安全巡回を通じて、カルマーでの草刈りを推進していくこととしました。
- ④ 安全推進委員会・事業部会による「事故ゼロ班」を立ち上げ、就業会員の皆様と除草の現場で共に活動しました。多くの除草会員の方々と就業を通じて安全就業と向き合い、共に考えることで意識の向上を図ることができました。

(5) 研修会・講習会の開催

- ① センターの基本理念である自主・自立、共働・共助を実践するために、就業に対する姿勢を身に付け、技能・技術を高めることを目的として、研修会・講習会を定期的で開催しました。
- ② いきいき埼玉主催の研修会に参加しました。令和3年6月には『フレイル予防サポーター』の資格を4名が取得し、令和4年3月には『体力測定員』の資格を5名が取得しました。次年度計画のフレイル予防活動準備の第一歩となりました。
- ③ 研修会・講習会後のアンケートの見直しを行い、等間隔尺度の逸脱や回収箱の設置など、誘導質問と取られかねない部分の修正を行いました。
- ④ 新会員研修では、2部のタイトルを『健康管理は自己管理』から『健康管理と就業への心構え』とし、受講直後に就業する会員のためにも、適正就業を支援できる内容に変更しました。
- ⑤ 就業時研修では、『人の振り見て我が振り直せコーナー』にて、最近のトラブル事例をタイムリーに取り上げ、豊富な情報を提供し、受講者が同じトラブルを起こさないよう、心構えの強化策としました。

(6) 社会貢献の推進と普及啓発活動

- ① 2年続けて中止となった春日部駅西口ロータリー近辺の街路清掃は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。
- ② 介護施設や市の高齢者施設を訪問し、ハワイアン音楽とコーラスを楽しんでいただく音楽ボランティアは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。
また、配信媒体やCD製作などの代替案も十分に検討しましたが、実現に至りませんでした。
- ③ 春日部市全戸配布の「かすかべシルバー」は年2回を予定していましたが、「シルバーまつり」中止のため年1回の発行となりました。
また、ホームページのアクセス数は令和2年度に比べて月間平均1,000件強増加しました。
- ④ 本年度の市のイベントは、ほとんど中止されましたが、市内の公民館にパンフ

レットスタンドを設置し普及啓発活動に努めました。
また、「オンライン春日部藤まつり」に働く会員の素顔をコンテンツとして参加しました。

(7) シルバー学校の継続

- ① シルバー学校は、毎年市民の方に好評をいただいている事業ですが、昨年同様新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

なお、「植木学校」「襖・障子・網戸学校」の参加希望者から、センターでの就業を希望する方を対象に面談及び研修を行い令和4年度から植木班6名・襖班2名の方が新たに会員として就業することになりました。